

## トップインタビュー



### 【プロフィール】

昭和 62 年 自治医科大学医学部卒業

昭和 62 年 福島県立会津総合病院 初期研修

平成 4 年 自治医科大学付属大宮医療センター 後期研修

平成 7 年 福島県立南会津病院 勤務

平成 21 年 福島県立南会津病院 院長

### 【資格等】

外科学会専門医

福島県立南会津病院は、福島県の西南部に位置する南会津郡南会津町に所在しています。南会津郡は、人口は約3万人とわずかですが、広大な面積(2,2,341 km<sup>2</sup>、ほぼ神奈川県の高さに匹敵)を有した山間豪雪地帯であり、郡全体で「南会津地域保健医療圏」を構成しています。

当院は、「南会津地域保健医療圏」内では唯一の病院であり、地域医療の中核的な役割を担っています。

**【Q1.福島県立南会津病院の地域での役割についてお聞かせください。】**

南会津郡は、面積が非常に広いですが病院が当院しかありません。そのため、2次救急医療を中心とした2次医療を当院でしっかりと担っていかなければいけないと感じております。救急医療においては、地域の中の移動だけでも1時間くらいかかる地域があり、ここから3次医療の提供先である会津若松市の病院まで1時間かかります。3次医療が必要な場合、当院で応急手当をして会津若松市の病院へ送る形ができなければ助かるものも助かりません。当院が救急医療で機能しなければいけないので、特に力を入れていきたいと考えております。そのためには、ある程度の診療科で常勤医師が必要です。その中で、内科、外科、整形外科、産婦人科、小児科、できれば眼科、耳鼻咽喉科とそういった診療科ができるだけ多く常勤でいるという事が必要になってくると考えております。

**【Q2.勤務する上での魅力や苦勞する点などについてお聞かせください。】**



春夏秋冬、非常に自然が豊かで良い地域です。冬は、ウィンタースポーツ好きな方であれば、病院から20分のところに非常にいいゲレンデがあって楽しめます。余暇の過ごし方はいろいろありますが、自然が好きな人でしたら、すぐそこでキャンプをして過ごす事ができます。逆に都会的な余暇の過ごし方をするのであれば、なかなか厳しいかと思います。

日常生活においては、デパートでブランド品を買いたいという事以外に不便な点はありません。病院のあるこの地域は、銀行、郵便局が一箇所にあります。そういった点では、大きな街に住むよりも便利だと思います。

病院での勤務においては、若い先生が多いためいろいろと融通がききます。専門科志向で、例えば救急医療でも、ちょっとでも自分の専門科でないと、それは専門科じゃないからということがよくあると思いますが、それが少ないです。現在、常勤医師は12人おります。自治医大卒の医師の割合が高いです。総合医の素養をもった医師が多く、幅広く診療科をまたいで診てもらうことが可能です。夜間の急患には、たいてい当直の医師が対応してくれます。ひとつの例として、夜中に怪我をした患者さんが来て

縫合が必要な時、内科医師が当直の場合だと、普通、外科医師が呼ばれますが、当院では、内科の先生が上手に縫ってくれます。診療科間の壁が低く風通しがいいです。負担が少なくチームとしてはすごく機能していると思います。

常勤医師は、週5日勤務のうち1日の研修を認めています。私以外の常勤医師は、週1日の研修日を利用して、それぞれ自分のやりたい研修に行っております。院内の研修も、それぞれの上級医が指導しながら診療をしております。今いる3年目の医師も先輩医師と検査を実施して日々の業務の中でオンザジョブトレーニングをしております。週1日の研修日で、将来、専門としてやりたい事ができる病院に研修に行き、院内でのオンザジョブトレーニングで先輩医師と共に検査・診療をしながら技量をあげる事が可能です。

### 【Q3.病院機能の将来的な変化についてお聞かせください。】



今後、高齢化率が更に高くなった場合、地域に唯一の病院として、どのように対応していくかという事が必要になると思います。南会津郡の人口は約3万弱です。高齢者の方が多く、高齢化率が他の地域よりかなり高くなっています。恐らく65歳以上が地域の中でも40%以上になると思います。当院に通院される患者さんはもちろんですが、入院患者さんも高齢者の方が非常に多いです。少なくとも今後、20年くらいまでは高齢者の数が劇的に増えると予想されています。人口全体はどんどん減ると思いますが、高齢者人口は増えるので、この地域の高齢化率は、恐らく50%は超えると思います。実際に西部地域の奥会津の町村では50%を超えている地域もあります。若者がいなくなってお年寄りだけの地域になるのです。

そうすると、急性期医療だけでは成り立ちません。高齢者の方だけになると介護力がなくなってしまいます。今も老老介護で大変ですが、それよりも、もっと高齢化率が高くなれば、お年寄りがお年寄りを面倒みているという状況になってしまいます。今まで歩いて自分の身の回りの事ができる人が病気になり、1週間から10日程度入院した場合、帰す時に元に戻っていない人が多いのです。一人暮らしの人もいるので、自分の身の回りの事ができなければ帰す事ができません。二人暮らしだとしても、もう一人の方が介護する事は無理なので、なかなか帰す事ができなくなります。ある程度リハビリをしたり、場合によっては長期療養病床でしばらくは病院の中で面倒をみたり

などといった機能が必要になってくると思います。そのへんの需要が間違いなく増えると思います。

**【Q4.求める医師像などについてお聞かせください。】**

人として当たり前に挨拶ができて、人付き合いのきちんとできる人が良いと思います。病気を治すだけ、病気を診る時だけみるのではなく、人を見ることが出来る方です。ここで提供する医療は二次医療が中心です。もちろん、腕が良く専門医であった方が良く役に立つ部分もありますが、それよりもきちんと患者さんや患者さんの家族と向き合える人間性豊かな医師を求めます。当院に診察に来る患者さんは、地域の特色もありますが情に厚い方が多く、信頼して最初から打ち解けて来て下さる方が多いです。そういう先生であれば、地域からも受け入れられると思います。受け入れられる事でやりがいをもって勤務ができると思います。

整形外科は現在2人おります。整形の需要が非常に多く、少なくとも3人できれば4人体制にしたいと思っております。高齢の患者さんが多くリハビリの需要も多いので、リハビリ部分だけを担ってくれる先生も歓迎します。産婦人科は、今、非常勤体制です。常勤が必要な科なので、今すぐにでも必要です。救急を担当してくれる先生も必要です。現在、救急車が年間で約700台、1日にすると約2台程度来ています。今は、日中・夜と、ホットラインを持って常に対応しています。すぐに救命士に指示を出さなければいけない時もあり、院内の手配も必要です。救急専門医に拘りません。救急医療に心得があって、二次救急医療の初期対応ができる先生を歓迎します。是非、一度お気軽にお問合せください。お待ちしております。